

アルミ輸入は二次合金以外は減少

スクラップ需給、メーカーの買い気は薄いか

橋本 健一郎氏リポート②

四月前半は、米国が通商三〇一条に基づき、半導体、リチウムイオン電池など中国製品一、三三三品目に対し二五%の関税を賦課する、と発表するなどの米中貿易戦争の激化。中国での建設活動は四月、六月に活発化するが、滑り出しではないといふ不安な点などのマイナスマaterialもあつたが、米国がロシアのアルミ生産大手ルサルに制裁を発動したことを受けて供給懸念が広がりLMEアルミ相場はU.P.、四月十五日時点で二、三二五ドル(セツル)と、月初価格から三二五ドルU.P.の前半締めとなった。

後半は、ロシア・ルサル社に対する米の制裁により、グレンコア、リオテインが一部の顧客との契約で不可抗力条項(フォースマジュール)を発動する方針を明らかにしたこと、ロシア・ルサル社のアルミ地金がLMEブランドを外されることによる供給懸念などのプラス材料もあつた。しかし、ロシア・ルサルからアルミの供給を受けている米企業に対し、米政府が制裁措置への対応期限を延期し、一段の制裁緩和を示唆したことから供給懸念が後退、それでもLMEアルミ相場はU.P.、五月十日現在でLME(セツル)二、三八四ドルと後半スタート価格から五九ドルU.P.してのスタートとなった。

●月間のドル/円レート (TTS)
一〇六・三九→一〇九・八五(円)

自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比〇・二%増の九三万二、〇〇三台であった。

自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・五%増の二二万五、三九〇台。

新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・三%減の六万九、六一六戸であった。

貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比二三五・七%増の一九四t、二次合金が二七・五%減の一、四六五t、スクラップが二四・二%減の七、〇七五t、アルミ缶が一五・一%増の六、四七七t。

輸入

輸入は新地金が前年比一七・二%減の一

万〇、六七五t、二次合金が〇・五%増の一萬〇、六五四t、スクラップが二二・六%減の五三四t、合金スクラップは一三・七%減の三、八一五t。

前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比三%減の一七万八、八九五tと、三カ月連続マイナス。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・六%増の七万一、五一四tであった。

概況

【自動車生産】

三月の四輪車生産台数は九三万二、〇〇三台で前年同月比〇・二%増となり、三カ月ぶり微増。

輸出は四四万一、六七五台で前年同月比五・三%増。

【自動車販売】

四月の国内自動車販売台数(軽除く)は二二万五、三九〇台で前年比〇・五%増と、七カ月ぶり微増。

このうち、乗用車一・二%減、貨物一三・一%増、バス八・八%減。

【住宅着工数】

平成三〇年三月の住宅着工戸数は六万九、六一六戸で、前年同月比で八・三%減となった。また、季節調整済年率換算値では八九・五万戸(前月比三・四%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で九カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比四・二%減、季節調整値の前月比では〇・四%増)。

(貸家)

前年同月比では一〇カ月連続の減少(前年同月比一二・三%減、季節調整値の前月比では五・九%減)。(六面へ続く)

(四面より続く)

(分譲住宅)

前年同月比では先月の増加から再びの減少
(前年同月比三・六%減、季節調整値の前月比
では九・二%増)

・分譲マンション

前年同月比では先月の増加から再びの減少
(前年同月比八・〇%減)

・分譲一戸建住宅

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月
比〇・八%減)

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産
出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前
年比三%減の一七万八、八九五と三カ月連
続マイナス。

(板類)

生産・出荷ともに三カ月連続マイナス。

(押出類)

生産・出荷ともに三カ月連続マイナス。

【アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比一・六%増の七万一、五一四
と六カ月連続プラス。出荷は〇・二%増の
七万二、三五五と六カ月連続プラス。

このうち、出荷先別では、鋳物四%減、ダ
イカスト二・二%増、板二・二%減、押出四・
九%減、鉄鋼一二・四%増、合金地金メーカ
ー〇・六%増。

【輸出】アルミ新地金が前年比二三・五・七
%増の一九四、二次合金が二七・五%減の
一、四六五、スクラップが二四・一%減の
七、〇七五、アルミ缶が一五・一%増の六、
四七七。

【輸入】アルミ新地金が前年比一七・二%減
の一・一〇、六七五、二次合金が〇・五%増
の一・一〇、六五四、スクラップが二・六
%減の五三四、合金スクラップが一三・七
%減の三、八一五。

【見通し】

・自動車は生産が〇・二%増。国内販売
台数が前年比〇・五%増。小幅ながら生産
が三カ月ぶりプラス、販売が七カ月ぶり
プラス。

微増から増加に転ずるかどうかが今後に注
目。

・住宅着工の動向については、前年同月
比で八・三%減と九カ月連続マイナス。下げ
幅が拡大、下落傾向が続くのかどうか今後

の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数量

板類・押出生産合計は前年比三%減と、三
カ月連続マイナス。今後マイナスが続くか
の動向に注目

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生
産実績

前年比一・六%増の七万一、五一四と六
カ月連続プラス、出荷は〇・二%増の七万
二、三五五と六カ月連続プラス。今後も
プラスが続くか注目

・アルミ輸出はLME価格の急騰や円安か
ら、地金、缶は増加、ただスクラップに関し
ては内需用途から減少した。

・アルミ輸入は円安を受けての割高感か
ら、地金、合金(スクラップ)は減少、その
他は増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、GW休み前のリスク売りが
済んでおり、ほとんどないのではないかと。

需要面に関しては前月に続き自動車の生
産、販売が低迷していることや、アメリカの
アルミへの関税問題からの高値警戒感から
購買意欲は薄いのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は米の露ルサルへの制裁の動向や
米朝会談及び北の核廃棄問題に左右される。
米の露ルサルへの制裁の動向に関しては、
露ルサルからアルミの供給を受けている
米企業に対し、米政府が制裁措置への対応
期限を延期し、一段の制裁緩和を示唆する
など軟化も見せており、落としどころを探
る交渉が続くのではないかと。

米朝会談に関しては、簡単に核廃棄とは
行かないものの、北朝鮮側は追い詰められ
ている状況でもあり、金政権運営が担保さ
れるなら廃棄する可能性もあり。

それらを踏まえた五月のアルミ価格は、
ルサルに対して米が再び経済制裁を行な
い供給懸念が台頭し、米朝会談が問題なく
行われた場合、先月高値の二、六〇〇ドルを
予測。いずれの場合も二、四〇〇ドル。
下値はいずれの条件も達成できなかった場
合、先月安値の二、二〇〇ドル。

為替は、前記材料からドル円値は一〇六
円一〇円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては〇・五円
高程度と予測している。